

◆半紙二行たて書きに臨書して下さい。出品料440円

第六回

1、字句「得果此縁」

2、形式「半紙タテ使用。右に「得果」、左に「此縁」と臨書し、左余白に落款

「○○臨」と書き入れる。

3、概観「草書の筆遣いでは、筆の面の遣い方が重要となってくる。楷書では、

ほぼ一面での運筆であるが、「行草書になると多面での運筆が

必要となってくる。草書に関しては、進む側の面を遣うこと

が基本です。特に、「十七帖」では面を変える時に断筆を遣う

こととなります。断筆は転折で行われる事が多い。断筆では

線の変える時、面を変える。転折で面を変えない場合は

図①のように転折が狭くなるが、断筆を遣うことによって

転折部が明るくなる(図②筆の動き)。

4、各字のポイント

得 一画目は通常左に開く画が多いが、垂直に。旁は右への動きが強い。

○余白を取る。

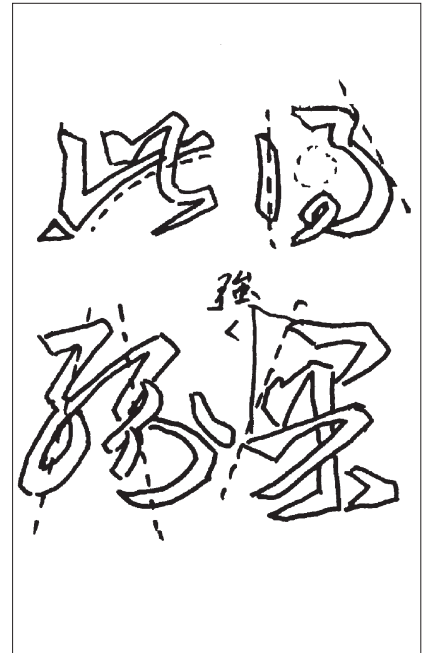
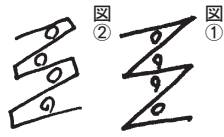
果 一画目強く入筆し、送筆は右肩下げ、転折で面を変える(断筆)。

縦画は右に開き、ハネは押し出すように、次画の起筆も強く突き、送

筆で引き上げる。

此 △の転折で強く突き、右側の面で持ち上げるように引き上げる。

縁 糸偏はやや左に開き、旁は右に開きバランスを取る。



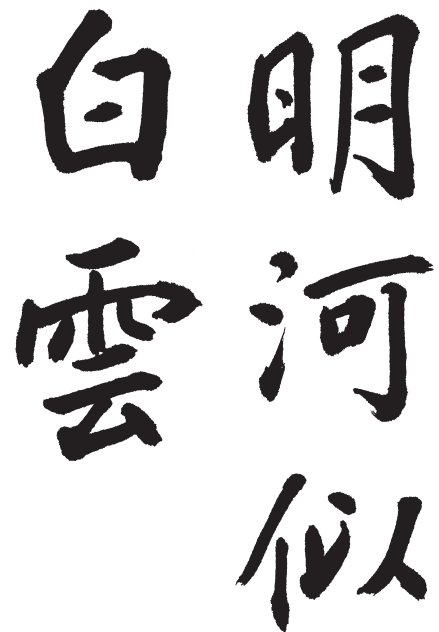
十七帖・王羲之

半紙課題(予告)

(十一月二十二日締切)

平岡華雪先生書

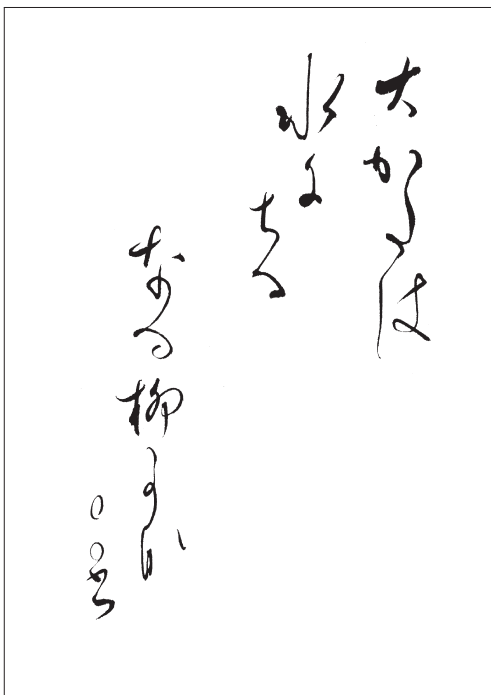
明河白雲に似たり。(璣徐)

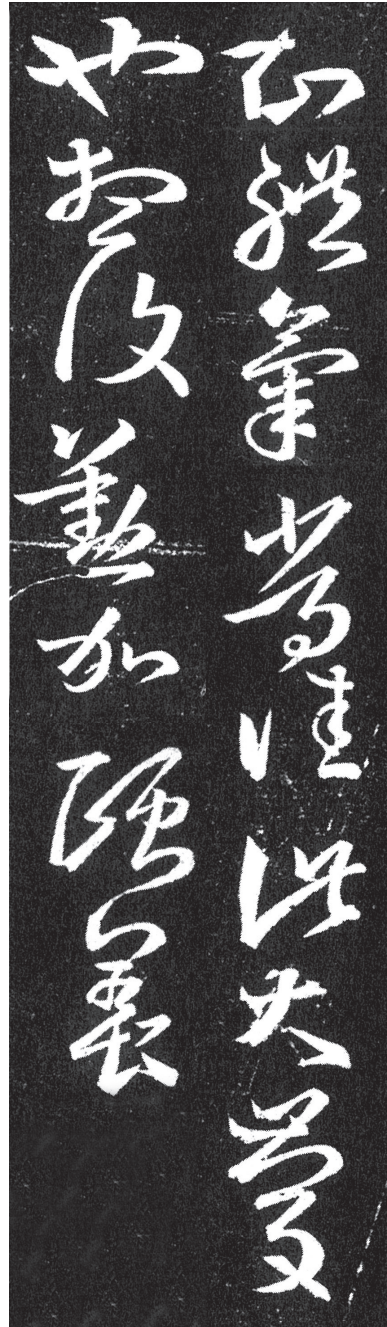


訳：天の川は白雲が流れるのに似ている。

平岡華雪先生書

大かたは水にちるなる柳かな(鳥頭子)





（天来書院）

知體氣常佳。此大慶也。想復勲加頤養。  
體氣の常に佳きを知る。此れ大慶なり。想うに復た勲に頤養を加えよ。  
（現代語訳）お話では益々お元気でいらっしやるご様子。慶びにたえません。どうかこれからもお身体大切にされ、養生なさってください。

※随意部参考（半紙・条幅）としてもご利用下さい。抜粋可。  
随意部半紙は無料。随意部条幅は一枚目無料、二枚目から五五〇円。  
バーコード券に「条臨」とご記入下さい。名簿は条幅部で「臨」と表示されます。

## 一字書（十月二十二日締切）

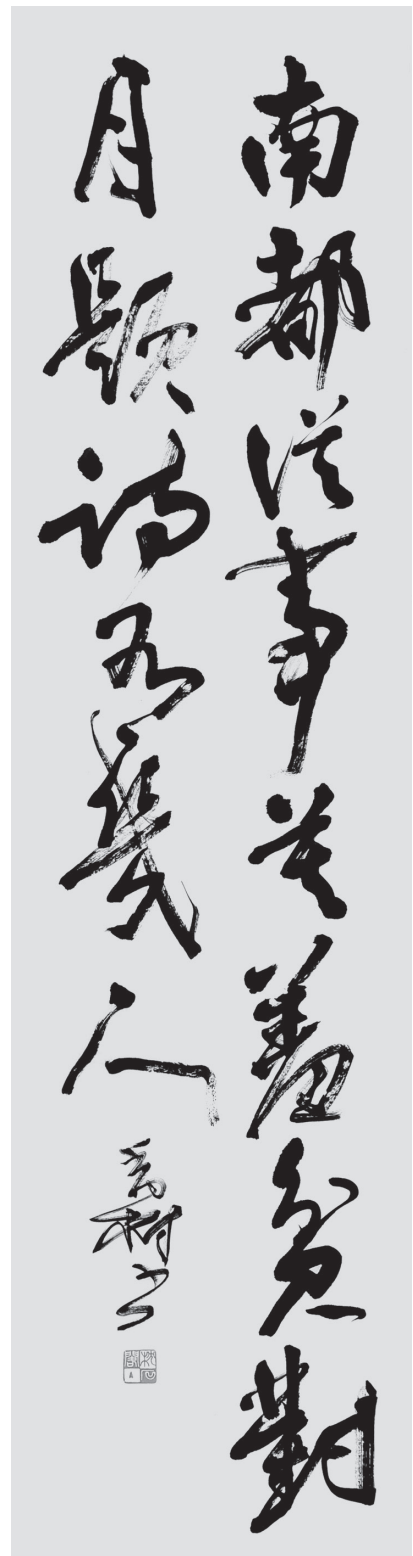
課題

# 哲

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ ※ヨコは中止
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四四〇円
- (5) バーコード券貼付 太枠内の臨昇の隣の空欄に  
一字と記入 段級は無記入

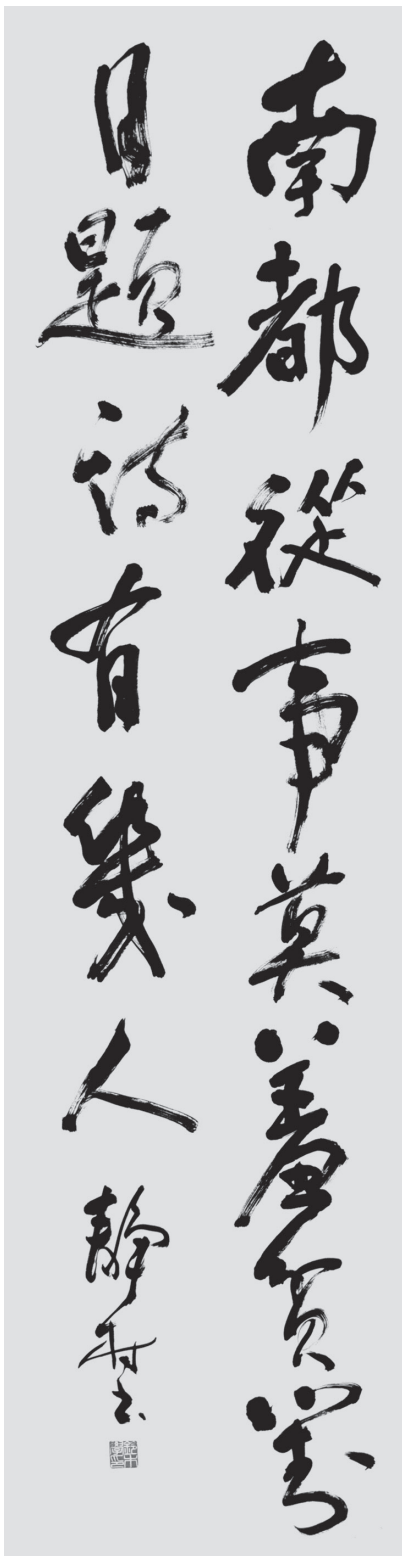
A  
高橋 香樹 會長 書

南都従事莫羞貧 對月題詩有幾人 (蘇東坡)  
南都の従事貧を羞ずる莫かれ、月に対して詩を題するは幾人か有る。



B  
鈴木 静村 先生 書

行草書同数の七字。連綿線は「有幾」の一ヶ所。条幅の文字形は、正方形・長方形に集約されることが多いので、今回は、それを止め、なるべく不定形とすることを意識した。この不定形は、並べかたにより行の流れを表出できるようになればとの思いによる。墨継ぎは、「貧」と「詩」。



「潤濁、遅速、抑揚、太細」これらをどのように導入するかによって、一字の中にも必ず変容をもたらす。これら表現上の要点を一点一画でよい、使い込んでほしい。取り組みのその過程で、新たな展開に出逢うこと必至であり、自信への直結が大きい。南 五・六画の二点の突き出し古典に多い。都 旁に変化。事 タテ画ポイント各自試みを。對 よく使われる草体。  
訳：南都の下役よ、貧しさを恥じなくてもよい。月に対して詩を題せるのは幾人もいるまい。

予告 (十一月二十二日締切)

溪畔印沙多鶴跡 檻前題竹有僧名 (李山南)

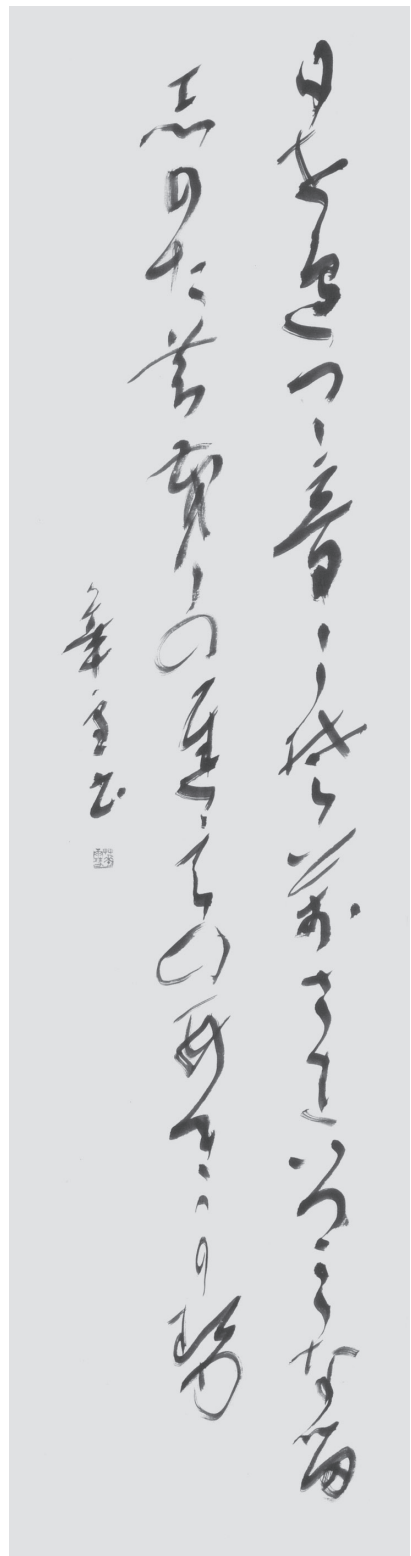
- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
  - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

A

平岡華雪先生書

日をへつ、おとこそまされ和泉なる信太の森の千枝の秋風（新古今和歌集）  
 日を邊つ、音こ楚萬さ連いつ三な留志のた農茂りの遅衣のあき可勢

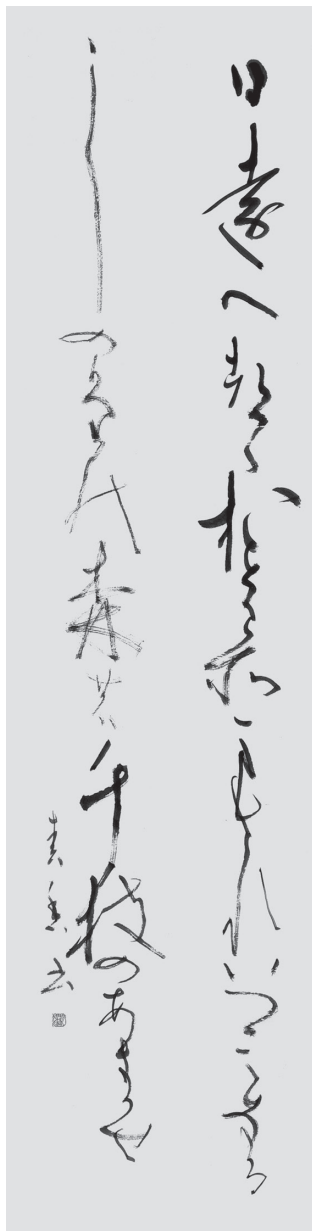
藤原経衡



B

石原春香先生書

日遠へ都々於とこそ所万されいつ三奈る之の堂能森農千枝のあき可せ



新古今和歌集、巻第四  
 秋歌上。平安時代中期の  
 官吏歌人、藤原経衡の歌。  
 和泉（大阪）の信太の  
 杜には、狐伝説で知られ  
 る、萬葉稻荷がある。そ  
 こには樹齡二千年と云わ  
 れる千枝を持つ楠の大木  
 がある。

学 び 方

歌意：日が経つにつれて音がよいよ高くなることだ。和泉国の信太の森（現在の大阪府和泉市）の楠の数も知れぬ  
 枝々を吹く秋風は。

私は信太の森の楠がゆれて音が高くなる様を表現したいと思い一行目は  
 出してみました。二行目は千枝のゆれる様を太く荒々しく表してみました。

「日」を小さく「遠」を動いて書きはじめて下さい。雅印も木々のゆれる様を思い浮かべながら選んで押しました。



で風の雰囲気

予告（十一月二十二日締切）

立田山こずゑまばらになるまくに深くも鹿のそよくなるかな（新古今和歌集）

俊恵法師

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条かを○で囲み（1）と記入する。）
  - ・二枚目からの出品（バーコード券の条かを○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

星野煌雪先生書

摩天氣直山曾拔 徹底心清水共虛 (元楨)  
 天を摩する気は直く山曾て抜き、徹底の心は清く水と共に虚し。

摩天氣直山曾拔  
 徹底心清水共虛

煌雪書

訳：天を衝き迫る程に気は直くして曾って山さえ引き抜いた、どこまでも清らかな心は水と共にさっぱりとしているのである。

森 多富先生書

おしなべて木草に露を置かむとぞ夜空は近く相迫り見ゆ (長塚節)  
 おし奈遍て木草に露を於可むと楚夜空盤近く阿ひ世万利三遊

おしなべて木草に露を置かむとぞ夜空は近く相迫り見ゆ  
 おし奈遍て木草に露を於可むと楚夜空盤近く阿ひ世万利三遊

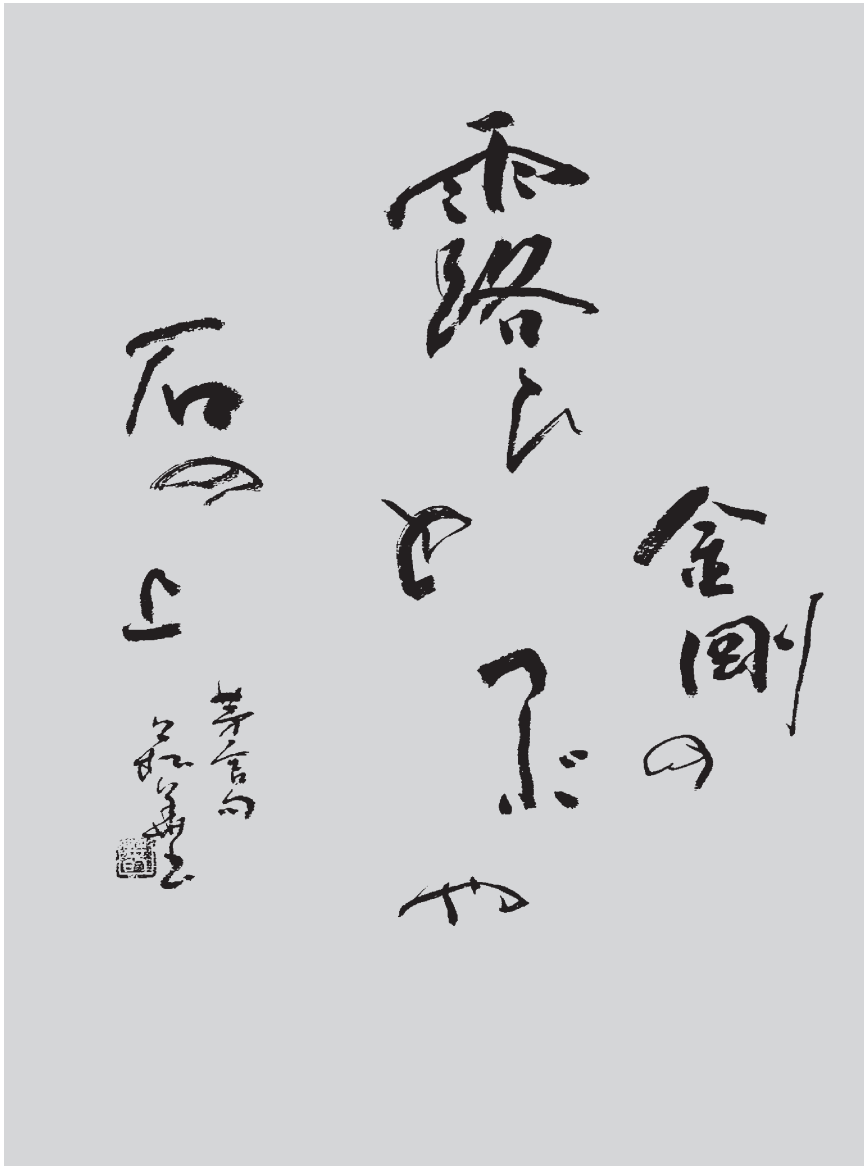
多富書

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条随を○で囲み(1)と記入する。)
  - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条随を○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

## 小暮 菘華 先生 書

金剛の露ひとつぶや石の上  
 (川端茅舎<sup>ぼうしや</sup>)

この句は、はかなさの極である露をみて、堅固の極である金剛(ダイヤモンド)と重ねその美しい一瞬を絵の視点で捉えています。  
 ・「金剛の」はやや低い位置から書き出し  
 ・二句目、山場の「露」は大きく、表情豊かに。「ひとつぶや」は一字ごとに、傾き、字間の表出に工夫してみました。



川端茅舎(一八九七〜一九四二)東京生まれ、俳人。日本画家川端龍子の異母弟。当初は日本画家を志したが、病を得て断念。俳句に転向、高浜虚子に師事。『ホトトギス』同人。病臥の中で花鳥諷詠に徹し端麗な句を作る。句集に『夏の日』『華厳』『川端茅舎句集』など。

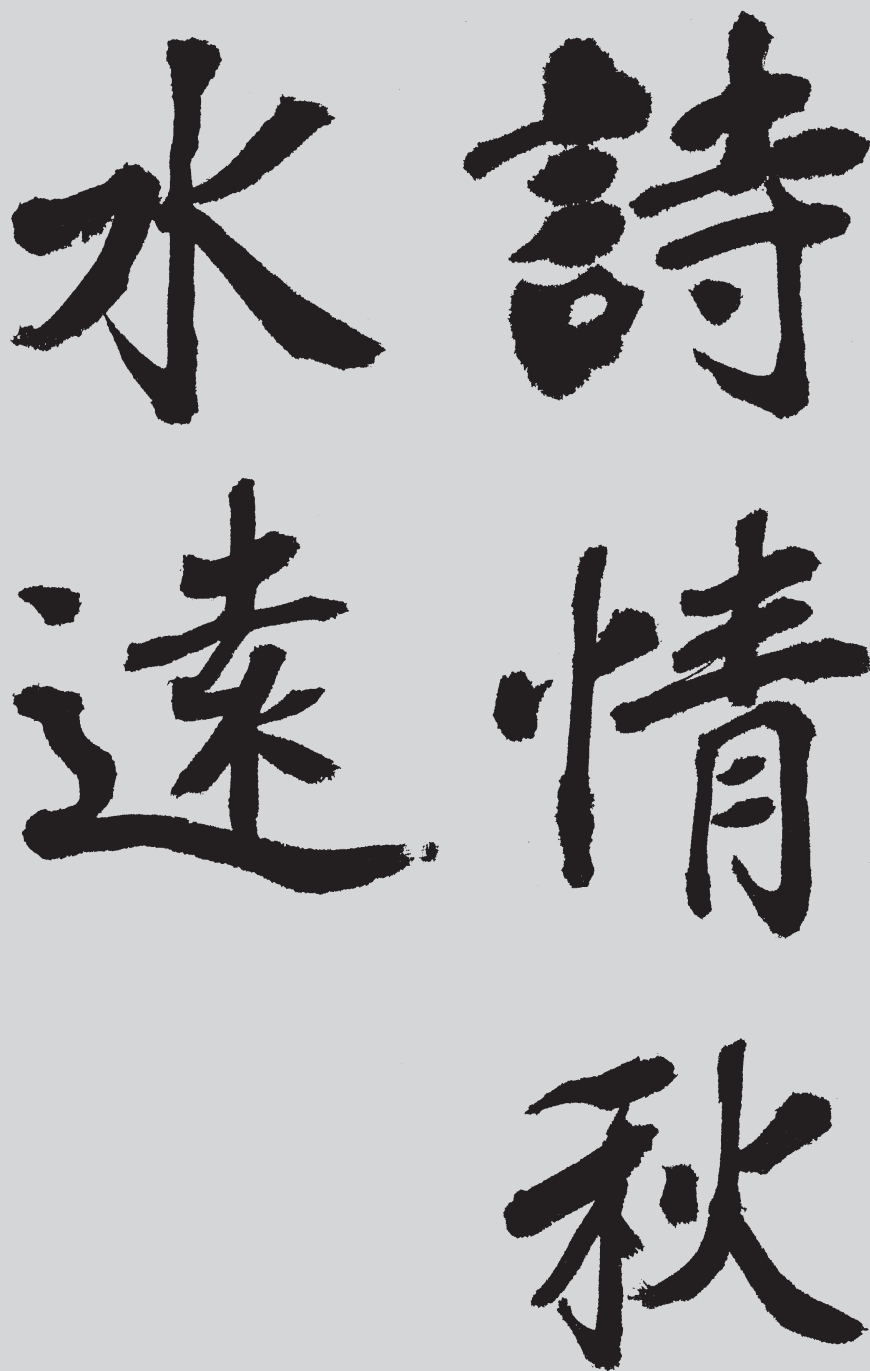
◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料550円。

①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

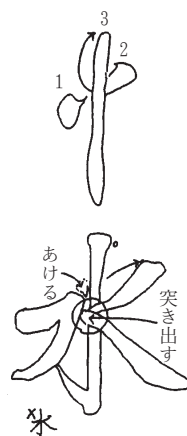
平岡華雪先生書

詩情秋水遠し(沈周)

訳：詩情は秋の水と共に幽遠である。



〈形のとり方の一つ〉  
 各字のタテ画は、いずれも高く書かれていますが、これは文字の形のとり方のポイントの一つです。文字の姿勢がよく、明るさをもたらしています。他の文字へも応用して下さい。

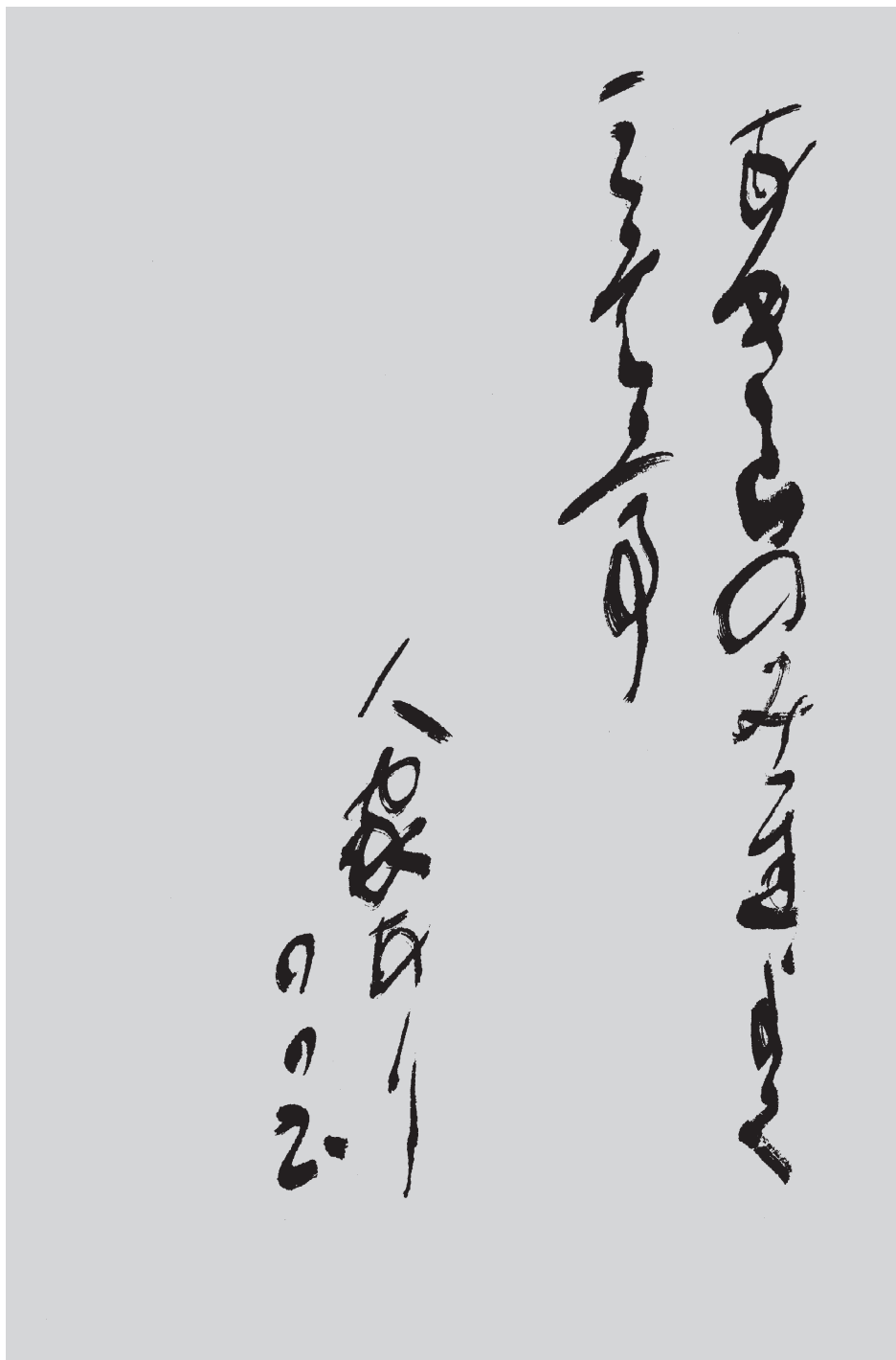


◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は460円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

秋山のみちよく見えて人家あり(旭川)  
あき山のみ遅ちよ久く三みえ亭て人家あり



〈先ずは、詩情から〉――↓  
詩情を表出することは至難ですが、華雪先生の御作には、どことなくしみじみとした情趣に誘い込まれます。左辺に大きく余白をとっている構成も近代的で先生独特の手法です。みなさんそれぞれで味わいを深め書作に入ってください。

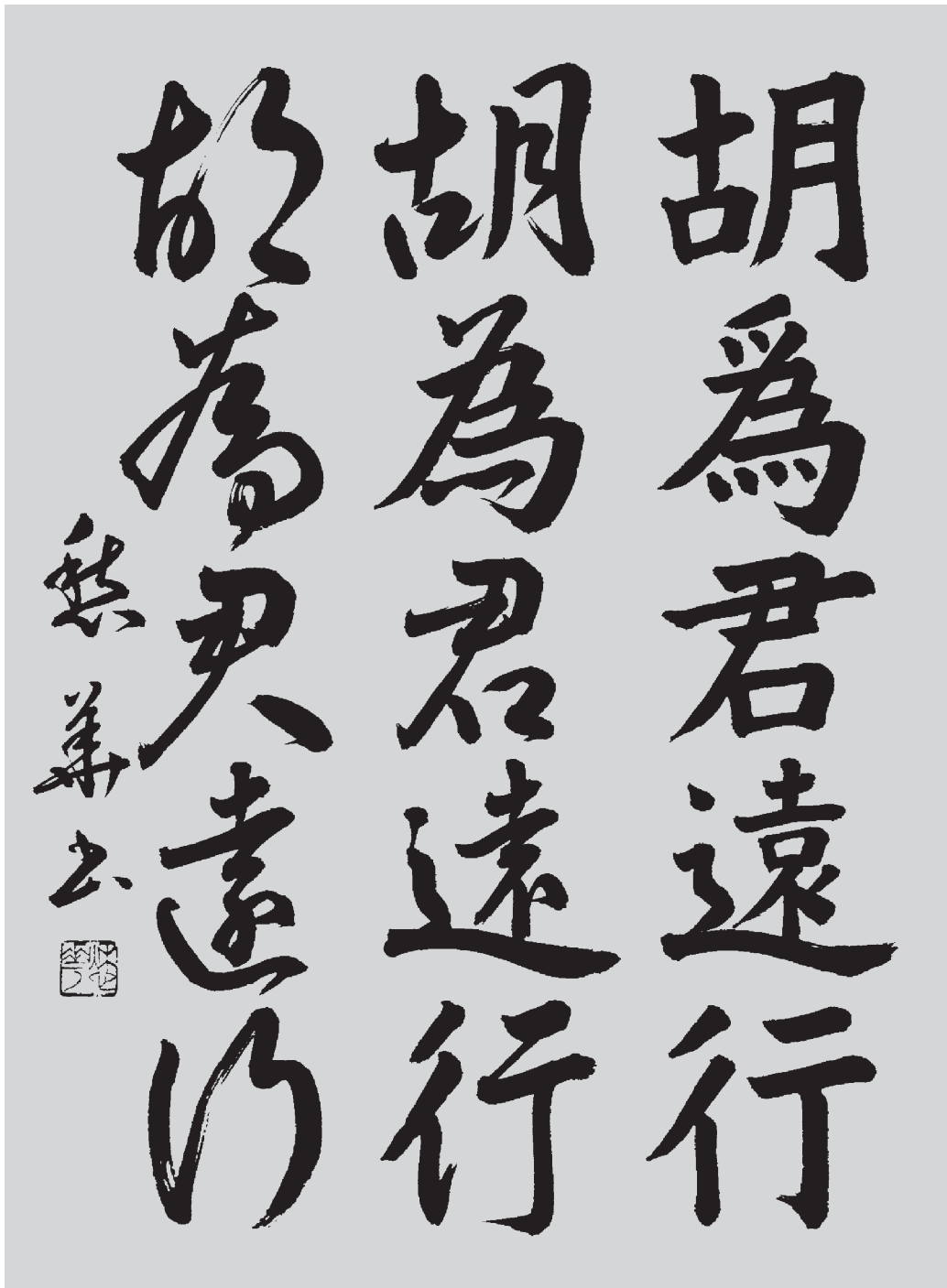
◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は460円。

①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新



石田 愁華 先生 書

胡爲君遠行（杜甫）  
胡なんす為きみれぞ君えんこう遠行する

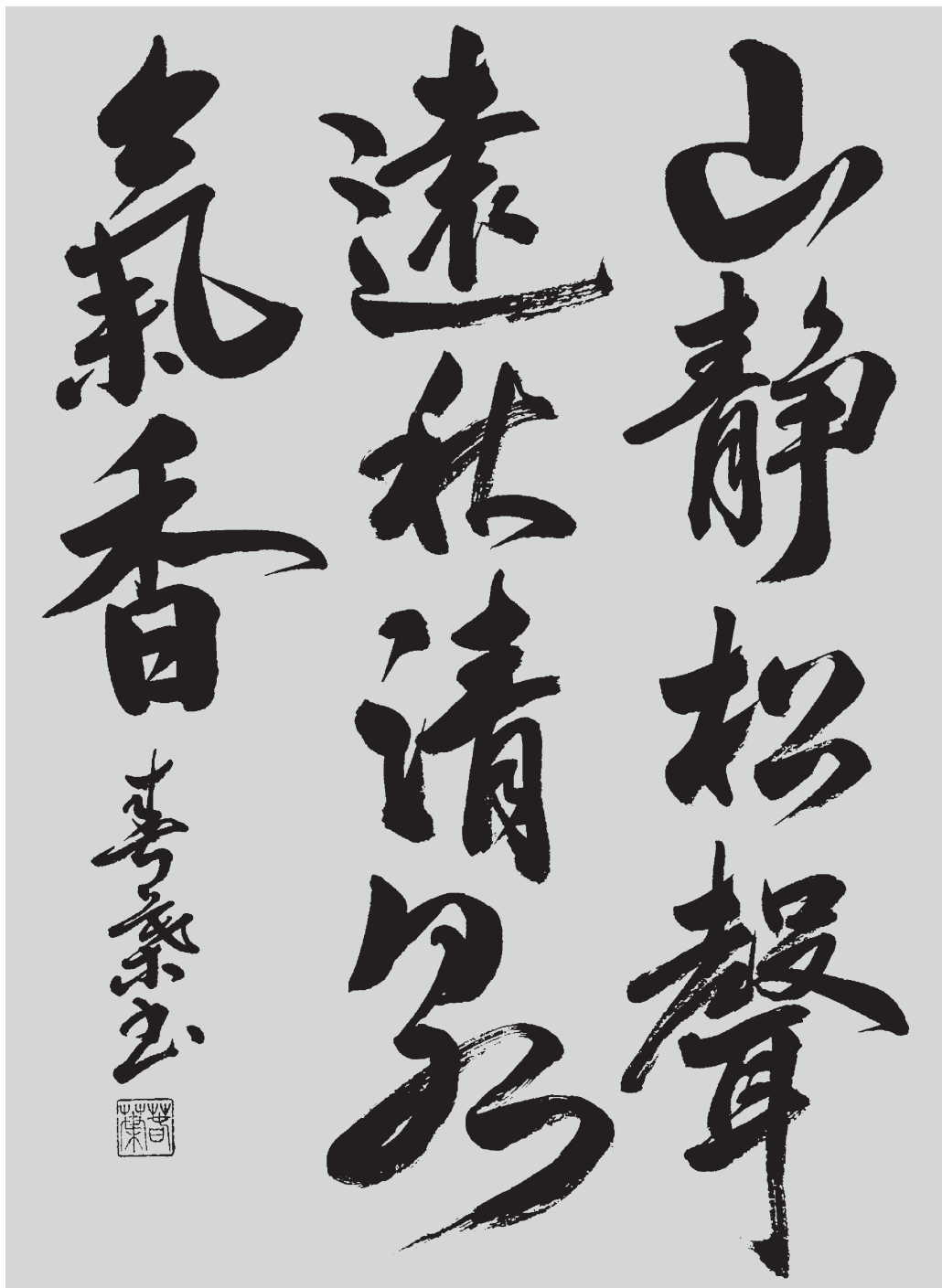


訳…どうして君はまた、遠くへ旅立つのか。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は460円。

多胡春葉先生書

山靜松聲遠 秋清泉氣香（吳學炯）  
山靜に松声遠く、秋清く泉氣香し。

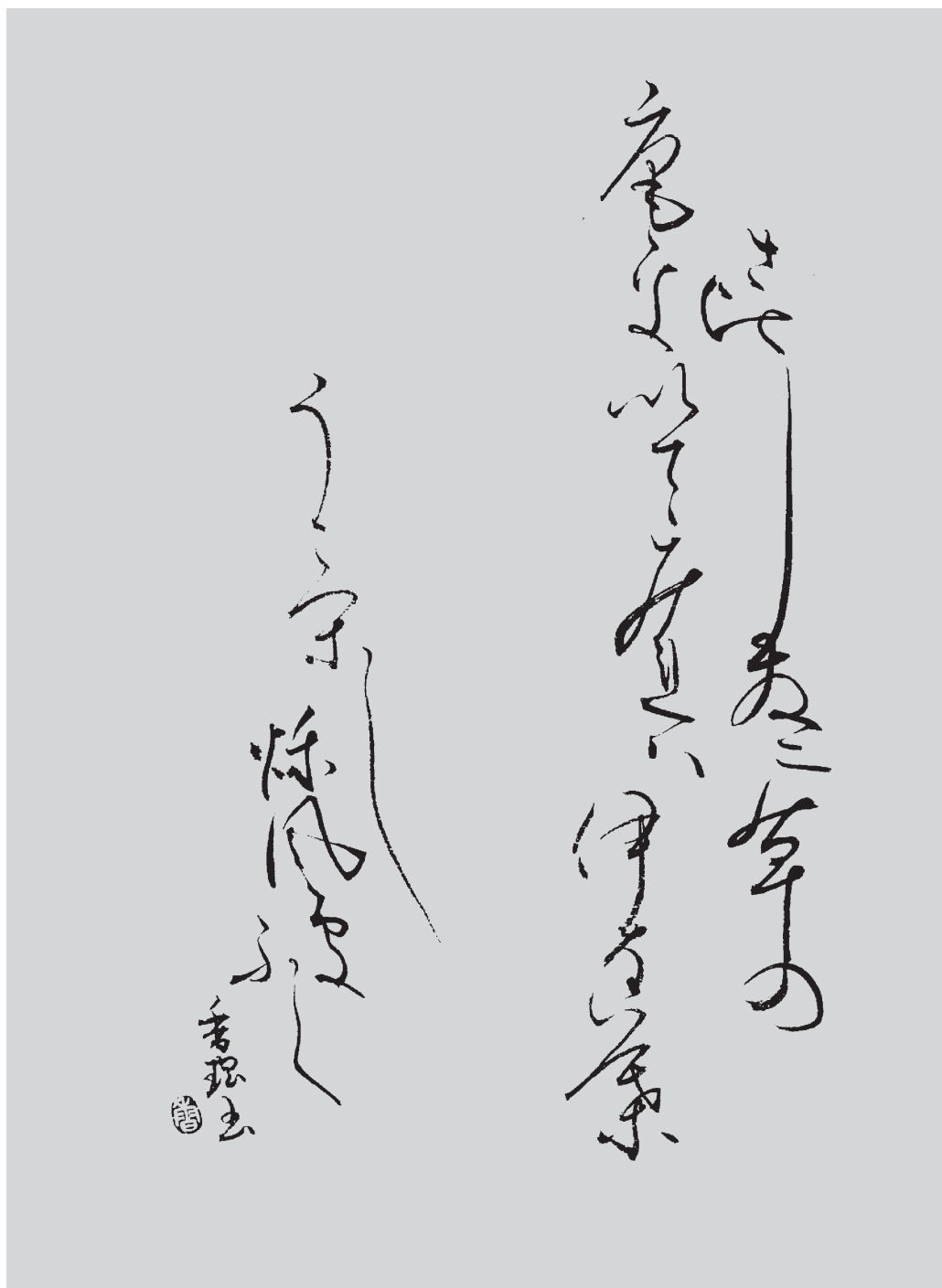


訳…山は静かで松吹く風の音は遠く、秋の気は清く泉氣は香ばしく感ずる。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は460円

内藤 香 瑶 先 生 書

さびしさに草の庵を出でてみれば稲葉うごかし秋風ぞ吹く（良寛）  
さびし散二草の庵乎以て、み連八伊奈葉うこ閑し秋風處ふ久



1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は460円

湯澤春翠先生書

川上香蓉先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)

あたりはまだ一面の芒尾花で、東西南北  
には各々二三本の大きな松が見え、  
風のなない日は小鳥の声がある。

私は昭和二年の秋、この喜多見の山野の  
くぬぎ原に、僅かな庭をもつ書齋を  
建てて、ここを一茶のつう終の住みかに  
しようという気になつた。

課題1 (初段階以上)

私は昭和二年の秋、この喜多見の山野のくぬぎ原に、僅かな庭をもつ書齋を建てて、ここを一茶のつう終の住みかにしようという気になった。

(柳田國男『野草雜記』)

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)。
- (4) はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四六〇円

課題2 (初段階以下)

あたりはまだ一面の芒尾花で、東西南北には各々二三本の大きな松が見え、風のなない日は小鳥の声がある。

(柳田國男『野草雜記』)